

土木工学・建築学委員会  
デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会  
(第26期・第2回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和6年5月27日(月) 10:00~12:00
2. 会 場 日本学術会議6C(1)(2)及びオンライン
3. 出席者 佐々木 葉・伊藤 香織・小野田 泰明・小野 悠・片桐 由希子・川崎 昭如  
・近藤 存志・斎尾 直子・坂井 文・田井 明・高橋 良和・中嶋 節子  
・松田 曜子・村上 暁信・山本 佳世子  
※下線は欠席 事務局：藤田 崇志

4. 議題および決定事項

(1) テーマに関する情報共有

佐々木委員長より、24期(内藤委員長)、25期(佐々木委員長)の振り返りの説明を改めて行った。さらに、5/27午後「土木工学・建築学委員会\_全体会」での本分科会紹介内容について、田井副委員長より説明があり、確認を行った。

(2) 今後の方針と予定

4-5月に実施した委員アンケート(Googleフォーム回答)今期の議論内容等に関して、エクセルファイルを見ながら、参加委員相互の意見交換を行った。下記、コメントのキーワード等を記す。

斎尾：イタリアのデザイン哲学・方法論「プロジェクトチオーネ Progettazione」。様々な市民参画活動のプロセスデザイン全体を指す。エデュカトーレ(educatore)という役割の重要性。

近藤：デザイン史。市民革命期から現代へ至るまでの「デザイン」の持つ意味の変遷。

中嶋：建築史、建築や都市におけるデザインの戦後史、デジタルデザインの歴史的環境における可能性。

小野田：東日本-能登半島、震災復興のデザイン。災害時の時間圧縮。統合する科学、イヴァン・イリッチ、ニコラス・ヘヴスナー。

佐々木：「デザイン」に迷ったら学術会議の本分科会が発行する冊子等を見ればいい、を目指していく。

デザイン教育の実態、公共事業におけるデザイン評価、職能とフィーの関係。

田井：公共構造物とデザインの今後。「デザイン」という用語で多分野が繋がっていく環境を創る。建築と土木。

伊藤：社会の課題を「デザイン」を通して解決していく方向性。「デザイン」の社会的理解。フィンランドの社会教育の中の「デザイン」は参考に。

片桐：ランドスケープ。土木分野での「デザイン」という用語の捉え方の変遷。大学内だけでなく社会全体でも、分離融合で何かやっていくときの「デザイン」で繋がる会話のありよう。

(3) その他

①前回議事要旨の確認

- ・ 2/28に行った第1回分科会の議事要旨を確認した。

②今後に向けて

- ・ 次回第3回分科会は、7/26（金）13:00-15:00 オンライン開催。
- ・ 次回分科会では、近藤存志先生に「デザイン史」に関して話題提供いただくこととなった。
- ・ 前期・25期はシンポジウム開催で終了したが、25-26期セットで考えてきており、  
今期・26期は、学会の見解等の規定フォーマットではなく、自主的なデザイン・ブックレット等、  
アウトプットを検討していくこととなった。
- ・ 土木工学・建築学に限らず、学生が興味を持ち、読めるものができるとうい。
- ・ 「デザイン」を狭義で考えることの弊害もわかりやすく示しておく必要がある。

以上